

令和元年度 人権同和問題県民のつどい



令和元年度人権啓発ポスター

日 時 令和2年2月4日(火)
13時30分開演
会 場 鹿児島市民文化ホール

主催 鹿児島県、鹿児島地方法務局 鹿児島県人権擁護委員連合会
鹿児島県人権啓発活動ネットワーク協議会
共催 鹿児島県教育委員会
後援 鹿児島県同和对策連絡協議会
鹿児島県人権同和問題啓発推進協議会



鹿児島県人権イメージキャラクター

プログラム

- | | | |
|---------|--|---------|
| 1 | オープニング
フリード フルーツ
Freed Fruit | 13 : 30 |
| 2 | 開会あいさつ | 13 : 45 |
| 3 | 表彰式
令和元年度人権に関するポスターコンクール
最優秀賞受賞者・学校賞受賞校の表彰 | 13 : 50 |
| 4 | 人権作文の朗読
「第23回鹿児島県小学生人権作文コンテスト」
最優秀賞作品の朗読
「第39回全国中学生人権作文コンテスト鹿児島大会」
最優秀賞作品の朗読 | 14 : 10 |
| - 休 憩 - | | |
| 5 | 人権問題講演会

〔講師〕 ^{すずき} 鈴木 ひとみ さん
(人権啓発講師／アテネパラリンピック射撃日本代表)

〔演題〕 「みんな一人の価値ある人間です
～生まれ・障がい・性別で変わるものではないはず～」 | 14 : 45 |
| 6 | 閉会 | 16 : 15 |

オープニング

フリード フルーツ
Freed Fruit

鹿児島県の表現者たちの魅力を発信し、〈表現豊かな県、KAGOSHIMA〉を目指して活動中。

－ プロフィール －

平成30年1月設立。ダンス×生演奏など、様々なアーティストを掛け合わせ新しい空間を創り出す、鹿児島在住の表現者たちが集う団体。枠にとらわれず様々な場所、人に合った空間創りを提供する。団体での主催・企画はもちろんのこと、各々のアーティスト活動もできることを強みにして、活躍の場を広げている。



講演

すずき

鈴木 ひとみ さん

(人権啓発講師／アテネパラリンピック射撃日本代表)

－ プロフィール －

82年度ミス・インターナショナル準日本代表。ファッションモデルとして活躍。84年に交通事故に遭い、車いす生活になる。イギリスでの国際競技大会で車いす陸上において金メダルを獲得。アテネパラリンピックの射撃日本代表。2016年車いすカーリング日本選手権で準優勝。

講演活動、企業のバリアフリーのアドバイス、NHK障害福祉賞の審査員。著書が『車椅子の花嫁』としてドラマ化。「命をくれたキス」は台湾・韓国でも翻訳されている。



令和元年度人権に関するポスターコンクール表彰式

◆全体の部 最優秀賞

南九州市立粟ヶ窪小学校 1年 ゆきまる 雪丸 いちか 莓華 さん

◆部門別 最優秀賞

〈小学校低学年の部〉

霧島市立天降川小学校 1年 のざき 野崎 こうた 宏太 さん

〈小学校中学年の部〉

霧島市立大田小学校 3年 かりや 苅屋 たつき 樹 さん

〈小学校高学年の部〉

鹿児島市立草牟田小学校 5年 いなみね 稲嶺 ゆうや 佑哉 さん

〈中学校の部〉

鹿児島市立紫原中学校 3年 もりた 森田 りん 凜 さん

〈高等学校の部〉

鹿児島県立鹿児島工業高等学校 3年 しだら 設楽 ももか 萌々花 さん

〈特別支援学校の部〉

鹿児島県立鹿屋養護学校 高等部2年 たなか 田中 ひでと 秀昇 さん

〈一般の部〉

霧島市 のざき 野崎 まさひろ 正博 さん

【学校賞受賞校】

◆小学校低学年の部

中種子町立油久小学校

◆小学校中学年の部

霧島市立大田小学校

◆小学校高学年の部

伊佐市立湯之尾小学校

◆中学校の部

鹿児島市立紫原中学校

◆高等学校の部

鹿児島市立鹿児島商業高等学校

◆特別支援学校の部

鹿児島県立武岡台養護学校

令和元年度人権に関するポスターコンクール 最優秀賞受賞作品

(全体の部)



南九州市立粟ヶ窪小学校
ゆきまる いちか
1年 雪丸 苺華

(小学校低学年の部)



霧島市立天降川小学校
のざき こうた
1年 野崎 宏太

(小学校中学年の部)



霧島市立大田小学校
かりや たつき
3年 苅屋 樹

(小学校高学年の部)



鹿児島市立草牟田小学校
いなみね ゆうや
5年 稲嶺 佑哉

(中学校の部)



鹿児島市立紫原中学校
もりた りん
3年 森田 凜

(高等学校の部)



鹿児島県立鹿児島工業高等学校
しだら ももか
3年 設楽 萌々花

(特別支援学校の部)



鹿児島県立鹿屋養護学校
たなか ひでと
高等部2年 田中 秀昇

(一般の部)



霧島市
のざき まさひろ
野崎 正博

人権作文朗読

●第23回鹿児島県小学生人権作文コンテスト 【最優秀賞】

◆ 低学年の部

『これでいいんだ』

学校法人池田学園池田小学校 一年 おおもり ゆうと
大森 結人 さん

◆ 中学年の部

『みんながえがおているために』

始良市立建昌小学校 三年 まるやま さやか
丸山 咲花 さん

◆ 高学年の部

『ぼくと車いす』

始良市立松原なぎさ小学校 五年 みなみ はると
南 陽人 さん

●第39回全国中学生人権作文コンテスト

【鹿児島県大会：最優秀賞（鹿児島県人権擁護委員連合会会長賞）】

【中央大会：奨励賞】

◆ 『まだ見ぬあなたの笑顔のために』

鹿児島大学教育学部附属中学校 二年 つじまつ ここ
辻松 瑚子 さん

【鹿児島県大会：最優秀賞（鹿児島地方法務局長賞）】

【中央大会：法務省人権擁護局長賞】

◆ 『レインボーフラッグのように』

鹿児島市立吉野東中学校 三年 よしもと きみか
吉元 希美香 さん

これでいいんだ

学校法人池田学園池田小学校 一年 おおもり ゆうと 大森 結人

ぼくは、おともだちといっしょにおにごっこをしたり、サッカーをしたりして、はしりまわるあそびがだいすきです。

でも、かけっこやリレーのれんしゅうのとき、いつもかなしいきもちになります。

「ゆうとくんのはしりかた、おかしい。」

と、おともだちにいわれるからです。がんばってはしっているのに。ぼくは、くやしくなりました。

いえにかえって、おかあさんにはなしをしました。すると、

「ゆうとはね、一さいのときにひだりあしをしゅじゅつしたんだよ。だから、すこしほねがまがっているの。」

とおしえてくれました。ちいさいときのできごとなので、ぼくはおぼえていません。しゅじゅつがおわっていえにかえってきても、あるくことができなかつたそうです。だから、たくさんあるくれんしゅうをしたことをおしえてもらいました。

「おとうさんやおかあさんはね、ゆうとがあるいたり、はしったりするすがたをみると、うれしくてかんどうするんだよ。」

と、にっこりしながらいいました。はじめてきくことばかりで、ぼくはびっくりしました。でも、

「かけっこはおそいかもしれないけれど、ゴールまでいっしょうけんめいがんばってはしったらいいんだよ。」

といってもらって、ぼくはあんしんしました。もしかしたら、まわりのおともだちのなかにも、びょうきやけがをしているひとがいるかもしれません。できないことやながてなことがあっても、いっしょうけんめいがんばっていたら、それでいいんだとかんじました。

一ねんせいになったぼくは、いまもはしりまわるあそびがだいすきです。おともだちとも、なかよくげんきにあそんでいます。

ぼくは、これでいいんだ。

みんながえがおしているために

始良市立建昌小学校 三年 まるやま さやか 丸山 咲花

わたしは、夏休みに車いすバスケットの体けんをしました。こぐのはきついし、高いところにあるものはとどかないし、とても大へんです。「バスにのるときはどうするのだろう。買い物もかごを持ってないし、高いところにある物とはとどかないから、もしかしたら、買い物は一人では行けないのかもしれない。」と思いました。それから、点字ブロックの体けんもしました。目をとじて歩いてみました。曲がるときや、止まるときは、ブロックの形がちがうからすぐに分かりました。でも、目の前が真っくらで、本当に歩けるか不安でたまりません。何がどこにあるのかも分かりませんでした。人が歩いてきても、ぶつかるまで気付かせませんでした。「点字ブロックがないところは、どうするのだろう。手すりがあればいいのにな。」「もしこまっている人を見つけたら、どこに行くんですかと声をかけてみよう。」と思いました。

わたしは、物を見て歩けることが当たり前だと思っていました。体けんをして、はじめてしょうがいがある人のふべんさや気持ちがよく分かりました。これまで気にならなかったことが、体けんをしたことで、とても気になるようになりました。

目の見えない人にとっては、点字ブロックはとてもべんりなものです。しかし、車いすの人にとっては、ブロックがでこぼこして小さなだんさになるので、タイヤが引っかかってしまい、ころんでしまうこともあるのだそうです。とてもべんりなものなのに、ぎゃくにこまってしまう人がいるのだと思いました。べんりさは人によってちがうことに気がつきました。だから、相手が何にこまっているかを考えておたがいに声をかけ合えるようになることが大切だと思います。

実は、わたしもそんな体けんがあります。学童の年下の友だちがこまっていました。たすけようと思って声をかけました。そしたらその友だちは自分の力でやりたいと思っていたので、「しないでいいよ。」と言われてしまいました。わたしはいいことをしたと思っていたので、とてもおどろきましたが、わたしと友だちは気持ちがちがったのだと気づきました。だから、その人の気持ちをじっくり考えて、その人が本当にしてほしいことを手つだうようにしようと思いました。

来年は、東京パラリンピックがあります。かごしまでは、全国しょうがい者スポーツ大会が開かれるそうです。わたしたちのみの回りには、手や足が不自由な人、目の見えない人、耳の聞こえない人、病気の人、お年より、外国の人など、たくさんのこまっている人がいます。その人が何にこまっているかを考えて「どうしたの。だいじょうぶ。」と聞いてあげるやさしい人がふえると、もっとすばらしい世の中になるし、みんながえがおになると思います。

ぼくと車いす

始良市立松原なぎさ小学校 五年 みなみ はると 南陽人

ぼくは、肢体不自由で車いすに乗っている。ぼくが車いすです町に出ると、みんな一瞬ぼくと車いすを見る。その後、素通りする人もいるが、興味津々じろじろぼくと車いすを見比べる人もいる。以前は、はずかしさが先に出て下を向くことがあったが、今は堂々として通り過ぎることになっている。

ぼくにとって、車いすは当り前の道具なのだ。みんなと違う通り方をしたって、めずらしい事でも悪い事でもないのだ。

そう思うようになったのは、こんな出来事を経験したからだ。

妹の通っている幼稚園でバザーをすることになった。ぼくは一緒に行くつもりで楽しみにしていたのだが、バザーの数日前に妹が泣きながら、

「お兄ちゃんは車いすに乗っていて、はずかしいから来ないで。」

と言って来た。ぼくは、どきっとした。

「だって、友達が『お兄ちゃんがベビーカーに乗るなんて変だよ。』って笑うんだもの。」と、小さな声でわけを話した。

ぼく自身も心のどこかで、みんなと違って歩けないという劣等感があった。車いすに乗る事は、はずかしいものという思いがあった。でも、それを口に出す勇気がなかったし、現実を受けとめてもいなかった。だから、面と向かって言われた事がショックだった。と同時に、自分が情けなく感じた。

その会話を聞いていた母が、幼稚園の先生に相談したら、そんな事があつたらいけないと、その日の内に子供たちに話をしてくれたそうだ。夕方妹は帰ってくるなり、

「あのさ、ごめんね。やっぱりバザーに来てもいいよ。」と照れくさそうに言った。

妹は、先生が話された事を教えてくれた。

「世の中には、目の見えない人や歩けない人もいます。人の体の事や病気の事を笑ったり馬鹿にしたりしてはいけません。皆それぞれ違うところがあつて、それが当り前なのです。」

とクラスの皆に話したそうだ。そして妹には、

「お兄ちゃんが歩けなくなつて、お兄ちゃんはお兄ちゃん。車いすをベビーカーって言われたら、車いすと呼ぶんだよって教えてあげなさい。」

とはげましてくれたそうだ。

ぼくはとても嬉しくて、先生へ感謝の気持ちでいっぱいになった。そして、ぼく自身、その言葉で勇気がわいてきた。ぼくはぼくのままでいいのだ。何もはじめる事はないのだと気付かされた。

バザー当日、ぼくも妹も少し緊張しながら幼稚園に行った。やはり車いすがめずらしいのか、子供たちが数名寄ってきて、

「なんでベビーカーに乗ってるの。」

と聞いてきた。ぼくは勇気を出して、

「これはベビーカーじゃないよ。車いすって言うんだ。ぼくは歩けない病気だから、これに乗っているんだよ。」

と答えた。すると子供たちは、

「ふうん。便利だね。」

と、それ以上聞くこともなく去って行った。ぼくは、自分の病気の事も車いすの事も人前でちゃんと話せたことが嬉しかった。ぼくはぼくなのだ。車いすに乗っている事もぼくなのだ。はずかしい事ではないのだ。

それからのぼくは、自分を認める事にした。冷たい視線や言葉があったとしても、堂々としていればいい。人と違って変なことではない。ぼくという人間を見てほしい。

これからも、「皆違って当たり前」という言葉を大切に、自分も友達も認め、違いを受け入れる強い心をもっていたい。

まだ見ぬあなたの笑顔のために

鹿兒島大学教育学部附属中学校 二年 つじまつ ここ 辻松 瑚子

「瑚子ちゃん、結局どうするの。予約。」

ついに、ついに、だ。本当にいいのか。いや、でも今回のヘアドネーションのために一年間頑張ってきたわけだし。母の問いかけに応じぬまま、私の中で寂寥感と高揚感が戦っている真っ最中である。

「ヘアドネーション」とは、寄付された髪の毛を使って、癌や白血病、先天性の無毛症、不慮の事故などにより髪の毛を失った子供たちに医療用ウィッグを提供するボランティア活動である。

—それから二十四時間後、私は髪を切った。ヘアドネーションとして提供できる髪の毛の長さは三十一センチ。既定ぎりぎりの長さだった。

「今切ったらベリーショートになっちゃうけど、大丈夫かな。」

美容師さんの言葉に思わず自分の髪を見た。胸元まであるそれと鏡を交互に見つめ、うなずいた。私の中で何かがすとんと落ちた。

小学校一年生の冬、私は肺炎で入院した。ずっとベットの上は退屈だったので、体調がよいときはプレイルームで遊んでいた。たくさんのお友達ができ、中でも一番仲の良かった女の子は、いつも毛糸で編んだ帽子を目深にかぶっていた。薬の副作用で髪をすべて失ったことは、少し後になって知った。

もし、それが私だったらと考えると、なんとなく、病院のあの子の顔が晴れなかった理由が分かった気がした。

髪を三十センチ失って気付いたことがある。女の子にとって「髪の毛」はとても大事だということだ。朝起きて後頭部の髪の毛が暴れていたならテンションが下がるし、逆に髪型が決まっていると、それだけで一日いいことがありそうな、わくわくした気持ちでいっぱいになる。それぐらい髪は大切な存在だったのだ。

正直、髪型ががらっと変わるのは気が引けた。長い髪の毛のままだがよかった。それでも切るという決断をしたのは、ある男の子の存在があったからだ。

新聞の特集記事でたまたま見かけたその男の子は、私よりもはるかに髪が長かった。小学校五年生という多感な時期でありながら、腰まである艶やかな髪の毛を大事そうに見つめていた。私は、はっとした。急に自分が恥ずかしくなった。この子は誰かのためになればと自分を犠牲にしている。もっとかっこいい髪型にあこがれているのではないか。毎朝の髪の手入れはもちろん、入浴後、これだけの長さがあれば、ドライヤーで乾かすのに十分以上はかかるだろう。まだ胸元にも達していない髪を乾かすのも面倒だと感じていた私には、衝撃的すぎた。

「そんなことは苦にならない。」と言う彼の笑顔に頭が下がった。髪を切った後の周りの反応や、髪の手入れを気にしている自分がとても恥ずかしくなったのだ。それと同時に、私も何か行動を起こそう、起こさなければ、と決意を強くした。

だから私は髪を切る。美容師さんが私の髪をヘアゴムで三十一センチになるようにいくつも束ねる。ドキドキした。私の髪で大丈夫かな、喜んでくれるかな。そう考えているうちに、「ザクッ」とはさみが入る音がした。その音とともに、病気や不慮の事故などによりウィッグを必要とする人のためにヘアドネーションをしようと決めたのに、見た目や周りの反応というくだらないことにとらわれていた未熟な自分と決別できた気がした。

一人の子にウィッグを贈るのに、二十人から三十人の髪の毛が必要だという。また、三十一センチでなくても、十五センチ以上の髪の毛を寄付できる「つな髪」という取り組みには、短髪の男性も多数参加しているようだ。近年、ヘアドネーションに対応できる美容室も増え、みんなが取り組みやすい仕組みが整ってきている。ヘアドネーションは年齢、国籍、性別、髪色、髪質に関係なく誰でもできるボランティア活動なのだ。ただ、まだまだ認知度は低く、学校でヘアドネーションの話をして知らなかったという人は少なくない。

「髪を切る」という当たり前を、病気と闘う子供たちの笑顔に繋げる取り組みがあるということを一人でも多くの人に知ってほしい。

そうすれば、病室で回復を待つ子供たちに少しでも多く、一秒でも早く光を与えることができるはずだ。

そしてウィッグを待ち望んでいるまだ見ぬ誰かが、あなたが、少しでも笑顔になれるように、私はまた髪を伸ばす。

まだ見ぬあなたの笑顔のために。

レインボーフラッグのように

よしもと きみか
鹿児島市立吉野東中学校 三年 吉元 希美香

「希美香のお兄ちゃん、かっこいい。」

これは、私の姉を見て、友達が発した言葉。私は内心、「お姉ちゃんなんだけどなあ」と思いつつも、本当のことは言わずに「うん、そうかなあ」と友人に答える。私は、これまで何度も似たようなやり取りを、私の姉を見た友人と交わしている。

私の姉は、LGBT。LGBTの「L」はレズビアン・女性同性愛者、「G」はゲイ・男性同性愛者、「B」はバイセクシュアル・両性愛者、「T」はトランスジェンダー・性別越境者を表している。つまりLGBTとは、セクシュアル・マイノリティ・性別少数者の総称の一つだ。私の姉は、身体的な性別は女性であるが、心の性別は男性なのだ。

姉は、子どもの頃から、男の子たちと遊ぶことが多く、服も男物を好んで着ていた。そして中学校卒業までは、ボーイッシュな女の子としてスカートもはいていた。しかし、高校に入学後、制服としてスカートをはくこと自体に違和感を覚えはじめた。そしてとうとうスカートのことを考えるだけで体調を崩してしまうようになった。朝の登校時間になると体調が悪くなる姉。そんな姉を見かねた母が理由を尋ねると、姉は重い口をやっと開いて「自分は男なんだ。だからスカートは、はきたくない。」と打ち明けた。その言葉を聞いた母は、「正直に話してくれてありがとう。ちゃんとした性別に産んであげられなくてごめんね。」と姉に泣きながら話したそうだ。

私は、この話を今年初めて母の口から、詳しく聞いた。きっかけは、学校で行われる弁論大会。題材に悩んでいた私は、何気なく母に姉のことを尋ねてみたのだ。これまでも姉が、LGBTであることは知っていた。しかし、母と姉との間でそのような会話があったとは、驚きだった。

私にとって姉は、特別ではなく、普通の「お姉ちゃん。」ただ姉を見た人に、兄ではなく姉であることを説明すると、中には珍しいものを見聞きするように、興味津々になる人がいることも事実。また、なぜだか同情するような態度をとる人がいることも事実。そして偏見の目で見える人がいることもまた事実だ。それが嫌な私は、姉のことを兄と勘違いする人たちに説明すること自体が億劫になり、内心思っている口に出さないことも多かった。しかし今回、母から詳しい話を聞いた私は、今のままの私の対応で良いのだろうかと考えさせられた。

姉が自分の本当のことを打ち明けるには、相当の勇気が必要だったことだろう。また「ちゃんとした性別に産んであげられなくて、ごめんね。」と涙した母の気持ち。それらを考えると、姉や母に何か悪いところがあるのだろうか、という気持ちが込み上げてくる。私

の姉は、珍しいものでも、同情されるものでも、ましてや人から差別されるものでもない。しかし、どうしても人は、マイノリティに対し、「ふつう」ではないとして、偏見や差別の気持ちを持ってしまいがちだ。そういう見方や態度をする周辺の意識が変わっていかねば、これからも姉は、さまざまな場面で少なからず悩むことも出てくるだろう。

今の私にできること。それは、これから姉のことを説明するとき、決して億劫がるのではなく、正しく周りに説明していくこと。そして正しく理解してもらうこと。とても些細なことだが、今の私には、これぐらいのことしかできない。地道だが、いつかマイノリティを多数派とは異なる生き方として認める人たちが、マイノリティではなく多数派となる日がくることを信じて、これから取り組んでいきたい。

姉は、母に自分のことを打ち明けてからは、本当の自分の気持ちを隠すことなく、正直に振る舞うようになった。まず制服のある高校ではなく、私服で通うことのできる高校へと転入した。成人式でも姉は、男物の袴をはいて参加した。そして現在は、LGBTであることを隠さずに、東京で働いている。

私は、ありのままの自分を隠すことなく生きている姉を、とても格好良く感じ、尊敬している。しかし、実際にLGBTであることをカミングアウトできる人は、ごく僅かだとも聞く。私は、もっと自分のありのままをカミングアウトしやすい社会になってほしいと願う。

LGBTの尊重とLGBTの社会運動を象徴する旗としてレインボーフラッグがある。この旗は六色のレインボーのものや八色のレインボーのものなどあるが、私は、この旗の鮮やかなレインボーが大好きだ。決して一色だけでは、この鮮やかさを創り出すことはできない。複数の色が重なり合っこそなのだ。私は、このレインボーフラッグのように、社会が多くの人々の個性で彩られ、もっともっと色鮮やかになっていくことを期待している。

人権に関する主な相談窓口

人権全般

〈鹿児島地方務局〉

人権擁護課 ☎099-259-0684 川内支局 ☎0996-22-2300
霧島支局 ☎0995-45-0064 鹿屋支局 ☎0994-43-6790
知覧支局 ☎0993-83-2208 奄美支局 ☎0997-52-0376

女性

女性の人権ホットライン（鹿児島地方務局） ☎0570-070-810
性犯罪被害110番（県警察本部） ☎#8103
性暴力被害者サポートネットワークかごしま「FLOWER」 ☎099-239-8787
県男女共同参画センター相談室 ☎099-221-6630
（かごしま県民交流センター内） ☎099-221-6631
県女性相談センター ☎099-222-1467

子ども

かごしま教育ホットライン24 ☎0120-783-574
☎0120-0-78310
☎099-294-2200
子どもの人権110番（鹿児島地方務局） ☎0120-007-110
ヤングテレホン（県警察本部） ☎099-252-7867
子ども・家庭110番（県中央児童相談所） ☎099-275-4152
県中央児童相談所 ☎099-264-3003
県大隅児童相談所 ☎0994-43-7011
県大島児童相談所 ☎0997-53-6070
児童相談所全国共通ダイヤル ☎189
かごしま子ども・若者総合相談センター ☎099-257-8230

高齢者

鹿児島シルバー110番（県社会福祉協議会） ☎0120-165-270
☎099-250-0110

障害者

障害者110番（県身体障害者福祉協会） ☎099-228-6000
県発達障害者支援センター ☎099-264-3720
（県こども総合療育センター内）
県障害者権利擁護センター（県障害福祉課内） ☎099-286-5110
障害者くらし安心相談窓口
（県障害福祉課） ☎099-286-5110 FAX099-286-5558
（大隅地域振興局） ☎0994-52-2108 FAX0994-52-2120
（大島支庁） ☎0997-57-7222 FAX0997-57-7251

外国人

外国語人権相談ダイヤル（法務省） ☎0570-090911
県外国人総合相談窓口 ☎070-7662-4541

エイズ・HIV

県健康増進課・各保健所 ☎099-286-2730
（県健康増進課）

ハンセン病

県健康増進課 ☎099-286-2720

犯罪被害者等

（公社）かごしま犯罪被害者支援センター ☎099-226-8341
犯罪被害者等支援総合窓口（県くらし共生協働課） ☎099-286-2523
性犯罪被害110番（県警察本部） ☎#8103
性暴力被害者サポートネットワークかごしま「FLOWER」 ☎099-239-8787

ここに記載してある人権に関する主な相談窓口等は、国や県の主なものです（令和2年1月現在）。この他、市町村でも相談窓口を設けている場合があります。相談時間など詳しいことについては、それぞれの相談窓口へお尋ね下さい。

地域・職場での研修をお手伝いします。

県では、県民の皆様へ人権同和問題に対する知識と理解を深めていただくために、次の取組を実施しています。

研修専門員の派遣

町内会などが実施する地域の研修や企業の職場研修などに、人権同和問題の講師を派遣しています。

- ※ 謝金は不要です。旅費はご負担ください。
- ※ 土・日・祝日は、原則として派遣できません。

研修DVD等の貸出

人権同和問題の啓発用DVD等の貸出を無料で行っています。貸出用リストは県のホームページをご覧ください。

令和2年1月末現在で、288本用意しています。

詳しくは、県ホームページをご覧ください。県庁人権同和対策課までお問い合わせください。

○県ホームページ

鹿児島県 人権啓発

検索

○電話：099-286-2573

○電子メール：jinken@pref.kagoshima.lg.jp